

ひと え しやう
単衣抄

御書全集 1514ページ 13行目〜15行目
編年体御書 799ページ 13行目〜15行目

にちれん にほんこく しゆつげん によらい きんげん
日蓮・日本国に出現せずば如来の金言も

むなし たほう しようみょう なにかせん・十
虚くなり・多宝の証明も・なにかせん・十

ほう しようぶつ みことば もうい ぶつめつご
方の諸仏の御語も妄語となりなん、仏滅後

にせん にひやくにじゅう よねん がつし かんど にほん いった
二千二百二十余年・月氏・漢土・日本に一

さいせけん たおんなんしん ひと にちれん ぶつご
切世間多怨難信の人なし、日蓮なくば仏語

すで た じやう
既に絶えなん

語句

いっさいせけん たおんなんしん
一切世間多怨難信

あんらくぎやうほんだいもん いっさいせけん あだおお
法華経安楽行品第14の文。「一切世間に怨多くして信じ難し」と読
む。仏が法華経を説く時は、どのような世間でも敵対・反発が多
く、信じることが、なかなかできないとの意。

通解

にほんこく しゆつげん ほとけ
日蓮が日本国に出現しなければ、仏
の金言も虚言となり、多宝如来が「法
華経は真実である」と言った証明も、
何の役にも立ちません。十方の諸仏の
言葉も、嘘となるでしょう。

ほとけ な ちゆうごく にほん せけん よ
仏が亡くなられて、二千二百二十余
年の間、インド、中国、日本に「世間
の人々に敵対者が多く、信ずることが
難しい」と説かれる経文通りに難に遭
った者はいません。

ほとけ ことば
日蓮がいなければ、仏の言葉は、も
はや途絶えてしまったことでしょう。

ひと え
単衣

うらじ ひとつえ
裏地を付けていない一重の着物のこと。